

卒団生の進学・成長エピソード

■マーロン（1期生）

小学6年生の入団セレクションではリフティングは5回位しかできず、技術面は正直大きく足りていなかったプレーヤー。しかし、誰よりも熱いハートの持ち主であり、誰よりも練習熱心だった彼は、アップの基礎練習から一切の手を抜かず、常に100%の取り組みを崩さず、3年間での技術面での成長は急速で、目を見張るものがあった。（影の努力もあったのだと思う）日大藤沢高校から熱烈なオファーを受けて進学を決め、高校3年では全国大会準優勝を経験。「ハーフのプレーヤーだから」の活躍ではない、彼の一番の特徴は「サッカーが好き・人より努力できる姿勢」であったと言える。

■柴田（1期生）

1期生で10番を背負った柴田。走れて、技術力も高く、何より視界の広さには驚かされるプレーが随所に見られた。良く言えばクレバーで、感情を表に出してプレーはしないが、そこを引き出してあげられたら更にレベルの高い世界を見せてあげられたのかな・・・と指導者としての後悔もある。彼は成績も優秀で大学まで文武両道を続け、今後は大学院で勉強を継続するとの話も聞いている。

■山田（1期生）

中3の頃には抜群の体格にも恵まれたが、空中でしなる、跳ね返す得意のヘディングは目を見張るものがあった。また、両足からの美しいロングフィード、速さと強さを持つCBとしてストロングを複数持ったプレーヤーに成長したが、長距離だけは苦手、笑三浦学苑に進学して、関東大会優秀選手に選ばれ、大学からもオファーを受けて駒澤へ進学。その後にも期待しましょう。

■岩崎（2期生）

2期生の10番を背負い、巧さだけではなく、ボールを奪う能力にも優れていたが、何よりも、サッカーの楽しさをプレーで表現してくれたプレーヤー。常に笑顔があり、仲間に愛され、常に彼の周りに人が集まってくる。福島尚志から10番候補として熱心なオファーを受けるも、「日本一の環境に身を置いて勝負したい」と流通経済柏への進学を選択。15歳での覚悟、決断の言葉には凄い一言。今後にも期待。

■中村（2期生）

スクールの可愛いヤンチャ坊主がGKをやったら飛び抜けた才能の持ち主で一気に男らしい男へと変わっていく。そんな姿を見せてくれた中村は、流経柏から流通経済大学に進学。「俺はプロしか考えていません」と言い切れる彼の顔は既に本物になっています。

■鶴谷（2期生）

高校ではサッカーを選択せずフットサルの道を選択。体が小さく、細かったので常に同学年で順風満帆な立ち位置を奪ってこれた訳ではないが、技術を積み上げ、体が小さくても目の前の相手と戦い、先の目標を持って進めた彼の強さの勝利で、フットサルU-20日本代表にも選出され、現在は湘南ベルマーレでフットサル選手として生活している。

■竹中（2期生）

生意気だけど可愛げのあるサッカー小僧。自信もあるし、謙虚さもあって、本当にサッカーが好きなんだと思えるようなこれぞサッカー小僧。お世辞にも足が早い訳ではないけれど、予測とポディショニング、ボール扱いで高いレベルで活躍できることを見せてくれているプレーヤー。東京実業では1年でレギュラーを獲得、現在は名古屋の大学で奮闘中。